

76 76期リレーエッセイ

法曹人生のスタートダッシュ ～約半年の弁護士業務で感じたこと～

会員 吉田 正樹



1 はじめに

この度は、本誌76期リレーエッセイの執筆という貴重な機会をいただき、ありがとうございます。

私は、子どもの頃から、将来は自分の社交的な性格を活かし、直接人と触れ合って、人の役に立てる仕事に就きたいと思っておりました。その後、中高時代に弁護士という職業を知り、誰かの悩みに寄り添い、一人でも多くの人の幸せのために励みたいとの思いから弁護士を志すようになりました。

そして、多くの方々からの温かな励ましと支えのおかげで、司法試験合格後、1年間の司法修習を経て、昨年12月に弁護士登録をすることができました。

2 はじめての弁護士業務

早いもので弁護士登録から約半年が経過しました(執筆時点)。所属する事務所の諸先輩方と一緒に、多様な案件を担当させていただき、毎日が新鮮で、日々何かしら新しいことを学ばせていただいております。

また、依頼者と関わる度に、弁護士の使命と責任の大きさを感じています。とりわけ、個人の依頼者にとって、弁護士に依頼するという事は人生の一大事であることが多いことはいまでもありません。自分の力不足を痛感することばかりですが、依頼者にとって真に最善の利益を得られるように自己研鑽に努めようと決意しております。

刑事事件にも取り組み、ある事件は否認事件でしたが、勾留請求却下・不起訴を獲得することができました。依頼者が無事に日常生活を取り戻すことができたことに安堵するとともに、示談交渉の過程でお話しさせていただいた相手の方からも示談成立の際に感謝の言葉をいただくことができました。改めて、弁護士の

仕事は人を相手にする仕事である以上、どんな事件でも相手に対する敬意をもって、誠実に取り組んでいくことが重要であると実感した事件でした。

3 新たな出会い

司法修習生の頃から、法曹界は、裁判官・検察官を含め、若手・後輩を大切にしてくださる先輩方がとても多いように感じています。とりわけ、私は修習地が東京であり、東京弁護士会配属でしたので、当会の皆様には修習時代から大変お世話になり、感謝の思いでいっぱいです。委員会や会派でも事務所の枠を超えて、様々な日常業務や会務に励まれている諸先輩方のお話を伺えるので、非常に楽しく学ばせていただいております。

また、当会主催のクラス別研修も充実しています。基本的に月1回のペースで、様々なテーマごとにゼミが組まれているところ、弁護士登録から約半年であると未だ経験していないことも多く、勉強になることばかりです。担任・副担任の先輩弁護士に実際のご経験を伺えるのはもちろんのこと、同期とも日頃の業務の感想や意見を交わすことのできる貴重な場となっています。

4 おわりに

私が弁護士として業務に励むことができるのは、多くの人の励ましと支えのおかげです。感謝の思いと初心を忘れずに、また人のご縁を大切に、まずは私自身が依頼者の役に立てる弁護士に成長できるよう、実力と人間性を磨いてまいります。そして、諸先輩方が仰ってくださいるように、修習時代も含め法曹界の諸先輩方からいただいたものを少しでも後輩の皆様にお返しできるよう、さらには多くの人々や社会のお役に立てるように励んでまいります。